

研究のまとめ

1 研究内容の検証

(1) 補充・深化・統合

道徳の時間は、各教育活動において行われる道徳教育を補充・深化・統合する時間であるので、各教育活動でどのような指導がされてきたのか、また、子どもたちはどのようなことを学んできたのかを把握する必要がある。道徳の内容に示された基本的な道徳的価値の全体にわたって計画的、発展的に指導するためには、全体計画の別葉を活用し、計画的、発展的に指導されると、子どもの立場からは、様々な場面で学習した道徳的諸価値を自分のものとして捉えようとすることができると言える。

(2) 価値理解・人間理解・他者理解

人間らしさを表す道徳的価値を理解するということは、人間としてどうすればよいのか、という人間理解につながる。さらに、資料を基に他の子どもの考えを知ることで、様々な考え方方に触れることができる。このことから他の子どもの考えと自分のそれを比較したり、吟味したりすることで他者を理解することができる。このように道徳的価値を理解することは、同時に人間理解や他者理解を深めることにもつながる。

そこで、教師は子どもの実態に応じて、ねらいとする道徳的価値そのものについて理解することに重点を置くのか、人間理解に重点を置くのか、他者理解に重点を置くのかをはっきりさせる必要がある。

価値理解に重点を置く場合、価値そのものの理解をさせるだけでなく、人の生き方や自分の経験と照らし合わせて考えさせることが効果的であると考える。

また、他者理解に重点を置く場合、自分と違った考えに触れ他者を理解する一方で、自分自身の考えを深めることになる。子どもの思考を途切れさせないように注意しながら話し合いを進めることが大切である。

(3) 期待する学びの姿の設定

子どもの道徳的実践力を評価する努力は必要だが、内面的資質である以上、把握することは非常に困難である。そこで、授業を構想する際、子どもにどのような学びをしてほしいか、期待する子どもの考え方や思いを想定し、それを具体的にみとむための、期待する子どもの学びの姿を設定する。期待する学びの姿を設定することで、授業での目指す規準が明確になり、指導の工夫をすることができ、授業の改善に役立てることができる。

ただし、子どもの姿だけを改善の視点にするのではなく、その姿に至るための、期待する考え方や思いを見取ることを前提にしなければならない。

(4) 指導方法の工夫

① 発問構成の工夫

ア 道徳的心情について

道徳的心情とは、他律的・消極的な低次の心情ではなく、「そうしなくてはいられない」「そうしないと気持ちがおさまらない」といった高次な心情である。この心情を養うためには、道徳的判断に裏付けられた道徳的心情を高める資料を提示するとともに、ねらいとする道徳的価値の存在を望ましいと感じることを前提とした道徳的雰囲気に包まれた中、その資料を通して学ぼうとする環境が必要である。発問については、「主人公の気持ちは?」「主人公はどのような気持ちからそのような行動をとったのか?」など、主人公の行動の背景にある心理的移ろいを問う発問で構成される。

イ 道徳的判断力について

道徳的判断力とは、ある道徳的行為をするとき、どちらの価値を優先させるか取捨選択する能力であり、人が見てもいなくても、「自ら信ずる方法によって善悪を判断する力」といえる。この判断力を養うためには、子どもの道徳性よりも少し高く、結論の出ていない資料を提示するとともに、善を求め悪を憎む道徳的知性に基づき、よりよい根拠を追求する話し合いとなるよう、子どもの思考が途切れないように教師はコーディネートする必要がある。発問については、「主人公はどうすべきか」「主人公はどうすべきだったか」など、論理的葛藤や道徳的判断を迫る発問で構成される。

② その他の指導方法の工夫

ア 提示する資料の工夫

教師による読み聞かせや分割して読み物資料を与えるなど、提示する内容を吟味した上で、それをどのように提示すると子どもの理解の助けになるかを考える必要がある。

イ 書く活動の工夫

子どもにとって書くことは同時に考えることであるから、曖昧であった自分の考えを整理したり、忘れていた体験を思い起こしたりするために有効な手段である。考えを深めるためには十分な時間の確保が必要である。

ウ 板書を生かす工夫

順序や構造を理解する助けになったり、思考を深める手掛かりになったりするなど、子どもの理解や思考の助けとなると同時に、学級全体で一緒に考えることで、集団の思考を深めることができる。たくさん的情報を板書することなく、中心部分を浮き立たせる工夫が必要である。

2 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- 道徳の時間において、そのねらいに基づいた発問を構成することで、道徳的価値の自覚を深めることができ、道徳的実践力を育成することができた。
- 補充・深化・統合という視点は、道徳の時間の指導によって、道徳教育の指導を調和的に発展させる。
- 価値理解・人間理解・他者理解という視点は、その時間の指導を評価するための「期待する学びの姿」の規準となり、指導の改善を図ることで、子どもの道徳的価値の自覚を深めさせることができた。

(2) 研究の課題

- 道徳的心情や判断力が道徳的意欲・態度に及ぶための発問構成や指導方法の充実を図る必要がある。